

# 思いやり通信



仙台市立黒松小学校

令和3年6月28日

第5号

## 嵐の朝に。



6月7日は朝からものすごい雨と風で、子供たちはとても苦労しながら登校してきました。昇降口前で子供たちを出迎えていたのですが、子供たちからも次々と「大変だったよ、先生～」との言葉が出てきます。その日の風は大人でも傘をたたむのに苦労するほどの強さです。私も子供たちの傘をたたむ手伝いで忙しくしていました。

そんな中、お子さんを学校まで連れてきてくれたお母さんがいました。お母さんが傘をたたむのに苦心している間、送ってきてもらった2年生の女の子は雨に濡れた体で強風の中たたずんでいます。そのとき校舎の中からさっと出てきて、その子の手を握って校舎の中に連れて行ってくれた児童がいました。あっという間の出来事でしたが、その子の行為に、お母さんも私も思わず感動してしまいました。後で話を聞いてみると、まだ3年生だというその男の子は「他のお友達が無事につくかどうか心配になって見に来ていたら、困っているみたいだったから、入れてあげただけ。」とっていました。思いやりを自然に行動に移せる心に触れることができ、雨で冷えた私の体も心も少し温くなりました。

## 思いやりアンケートの実施

思いやりアンケート 6月

年 組 名前 \_\_\_\_\_

- このごろ、誰かがいじめられているのを見たことがありますか。  
(1) ある (2) ない
- 今、誰かにいじめられていますか。  
(1) いる (2) いない
- 今、先生に相談したいことがありますか。

6月中旬、右記の内容で思いやりアンケートを実施いたしました。前回もお伝えしたとおり法律でいじめの定義が明確にされ、好意による助言や気遣いも受け手の捉え方ではいじめになってしまう場合があります。私たちはそのような「無自覚ないじめ」に関しても、該当児童の心情を聴き取り、再発防止に向けた取組をしていきます。左記のアンケートの2の質問でいじめられているに○が付けられていた場合には暴力行為や嫌がらせ等の「故意によるいじめ」はもちろんです、上述した「無自覚ないじめ」

についても丁寧に聴き取りを行い、事実確認をし、仙台市いじめの防止等に関する条例にのっとり、いじめを受けたとされる児童の保護者の方と、いじめをしたとされる保護者の方の双方に連絡をさせていただいております。保護者の皆様におかれましては、学校からは従来の「故意によるいじめ」に加えて「無自覚ないじめ」に関しても情報を提供させていただいていることに関してご理解をいただき、連携して子供の成長を促せるようご協力をいただきたいと思います。

仙台市いじめの防止等に関する条例（第20条）

「いじめを受けた児童生徒又はその保護者に対する支援、いじめを行った児童生徒に対する指導又はその保護者に対する助言を組織的かつ継続的に行うものとする。支援、指導、助言に当たっては、児童生徒及び保護者と共通理解の下に行われるように配慮するものとする。」

# 関わり合いの中で成長する心 (修学旅行・野外活動)



黒松小学校最高学年の6年生は、6月9日(水)～10日(木)の二日間、福島県の会津方面で修学旅行を実施いたしました。私も引率のお手伝いをさせていただいたのですが、子供たちは積み重ねてきた事前学習を基に、会津若松市内での自主研修や猪苗代方面での施設見学を順調に進めることができました。

私が感心したのは、計画通りにいかなかったときの臨機応変な落ち着いた対応です。自主研修でバスに財布を忘れてきてしまったメンバーがいると、手分けし

て一緒になって荷物を探してあげたり、先生に連絡を入れたり、自然に役割を分担して対応に当たっていました。計画より研修が早く済んでしまったり、逆に時間が押してしまったりしたときには、どのように時間を使うかお互いの考えを出し合い、班のメンバーみんなが納得できる方法を考えていました。班員同士の話し合いで折り合いがつかない場合には、すぐに助言ができるよう、私は付かず離れず子供たちの様子を見守っていたのですが、とうとう私の出番はありませんでした。班の集団行動の中で、おそらくは少しずつの我慢をしなければならない場面もあったと思うのですが、子供たちは様々な問題を自分たちの力で解決し、お互いに心を成長させていました。

修学旅行の翌週15日(火)～16日(水)は、泉岳自然ふれあい館における5年生の野外活動の引率のお手伝いをする機会に恵まれました。登山を開始した時には天候に恵まれていたのですが、頂上に近づくにつれ雲行きが怪しくなっていました。ついに雨も降り始めてしまったので頂上での昼食を断念し、下山を開始しました。疲れと空腹、そして過酷な自然環境下で、お互いに励まし合い助け合いながら、全員が自分の足で予定時間通りの到着を果たすことができました。入館式でふれあい館の先生から「あいにくの天候で大変だったかもしれませんが、この大変な思いをみんなで乗り越えられたという経験は、大変貴重な物になるはずですよ。」というお話をいただきました。その言葉の通り、翌日の野外炊飯におけるチームワークは見事な物で、男の子も女の子も自分の役割に責任を持って取り組み、なおかつ自分の手が空くと積極的に声を掛け合って協力する場面が見られました。まさに苦難をともに乗り越えた仲間同士の協力関係は見事でした。



「ヒトは誰もが生まれたときはヒトリですが、二人以上のヒト(人)との間にできる空間で関わり合いを持つことで人間になっていく。」という話を聞いたことがあります。5年生の野外活動と6年生の修学旅行に同行させていただいて、まさに子供同士が互いに学び合い、心を成長させる姿を見ることができました。人と人との関わりの中で、価値観の相違やコミュニケーションの行き違いにより、表面に記載した「**無自覚ないじめ**」はどうしても生じてしまうと思います。私たちはそれも含めて心を成長させる機会と捉え、対処していきたいと思います。